CLA journal
Consultants of Landscape Architecture in Japan
no.187

一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会

会　長：金清典広 副会長：金子隆行・大杉哲哉・板垣久美子 事務局長：佐藤 將	〒103-0004　東京都中央区東日本橋3-3-7　近江会館ビル8F TEL：03-3662-8266　FAX：03-3662-8268 HP：https://www.cla.or.jp/　e-mail：info@cla.or.jp

支部事務局

北海道支部 支部長：佐藤俊義　事務局長：松野智絵美	〒060-0807　札幌市北区北7条西2丁目　山京ビル408　北海道造園設計㈱ 内 TEL：011-758-2261　FAX：011-709-5341
東北支部 支部長：板垣清美	〒010-0973　秋田市八橋本町 4-10-26　株式会社緑設計 内 TEL：018-862-4263　FAX：018-862-4273
関東支部 支部長：板垣久美子	〒103-0004　東京都中央区東日本橋3-3-7　近江会館ビル8F（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会 内 TEL：03-3662-8266　FAX：03-3662-8268
中部支部 支部長：則竹登志恵　事務局長：水谷吉宏	〒461-0005　名古屋市東区東桜2-17-14　日本工営都市空間㈱　経営管理部 内 TEL：052-971-2541　FAX：052-971-2540
関西支部 支部長：西辻俊明　事務局長：津田主税	〒530-0014　大阪市北区鶴野町4-11-1106　㈱エス・イー・エヌ環境計画室 内 TEL：06-6373-4117　FAX：06-6373-4617
九州支部 支部長：大杉哲哉　事務局長：谷山恵一	〒810-0004　福岡市中央区渡辺通5-10-10　㈱緑景　九州事務所 内 TEL：092-713-8765　FAX：092-713-8759

CLA journal No.187

CLA journal

Consultants of Landscape Architecture in Japan

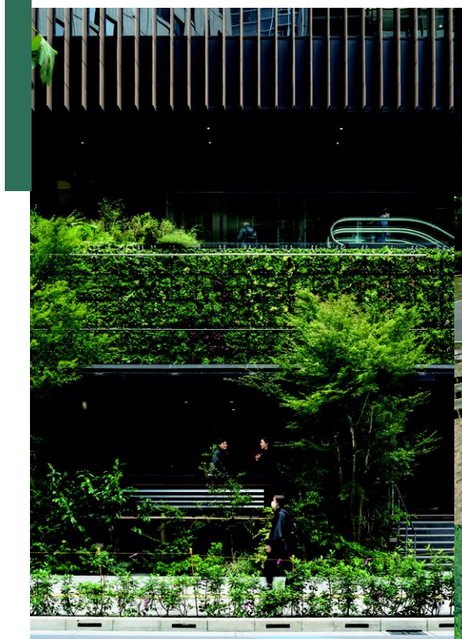
一般社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会

no. 187

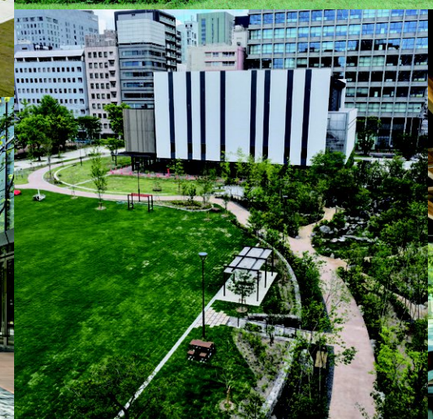
特集 2026年ランドスケープコンサルタンツ協会賞（CLA賞）

[企画特集・1] GREEN×EXPO 2027

[企画特集・2] 公園の再整備へと繋げる“創造的管理”










一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会
基 本 理 念

我々の使命は、新たな環境認識のもとに、
人と自然との関係を科学的、芸術的に把握し、
環境と調和・融合した新しい秩序づくりに積極的に挑戦することによって、
安全で豊かな環境の創出、
すなわち、「みどりの環境文化」の形成に寄与することです。

1

ランドスケープアーキテクチャーの専門家集団

我々は、日本におけるランドスケープアーキテクチャーの思想と技術を
継承し、発展させるために組織された専門家集団です。

2

新しい技術の開発と研鑽

我々は、来たるべき21世紀の社会に対する責任を十分認識し、
技術の高度化と多様化に対応した新しい技術の開発と研鑽を推進し、
技術競争の時代に対応します。

3

社会的信頼を獲得

我々は、社会的倫理観のもとに、公正な技術競争を通し、
内外の要請にも応えられる自立した職能として社会的信頼を獲得すべく行動します。

4

開かれた技術団体

我々は、内外の関連技術者との交流を通して、協調関係を積極的に推進し、
多様な価値観を内包する開かれた技術団体として広く展開します。

5

魅力ある創造的職能

我々は、経営体質の向上と安定を図ることによって、魅力ある創造的職能として
広く社会から信頼されることをめざします。

平成7年5月
「新しい環境文化の創造　―造園コンサルタントビジョン―」より

CLA Award 2026

特集：2026年 ランドスケープコンサルタンツ協会賞［CLA賞］

最優秀賞

【設計部門】
百道中央公園 インクルーシブな子ども広場整備 …… 2

優秀賞

【設計部門】
虎ノ門アルセアタワー ランドスケープ計画 …… 4

【設計部門】
石田梅岩記念館 …… 6

【設計部門】
磯上公園の再整備 ～都心におけるみどりの癒し空間の創出～ …… 8

特別賞

【設計部門】
新たな公民連携による子育て空間の創出 ―長岡公園リノベーション …… 10

奨励賞

【設計部門】
大槌町鎮魂の森 あえーる …… 12

【設計部門】
田町タワー …… 13

CLA賞の趣旨と募集・選考のあらまし …… 14

2026年CLA賞　受賞技術者プロフィール …… 15

［企画特集・1］GREEN×EXPO 2027

・GREEN×EXPO 2027、いよいよ開催半年前に！！ …… 18

・GREEN×EXPO 2027へのCLA出展について …… 22

・GREEN×EXPO 2027 CLA出展「木洩れ日プロジェクト」
―ランドスケープの社会的役割を再定義する実証空間として― … 26

・永続する森林経営から紡ぐ、ウェルビーイングな空間デザイン … 30

・造園は、人の時間をつくる仕事である
―CGSETがひらく職能の言語とGREEN×EXPO 2027― …… 34

［企画特集・2］公園の再整備へと繋げる“創造的管理”

・公園の再整備へと繋げる“創造的管理”とは …… 38

会員名簿 …… 42

表紙デザインは、2026年CLA賞受賞の7作品を紹介する写真をコラージュしたものです。今回の応募作品をみると、公園緑地を新たに整備するのではなくリニューアル、再整備がキーワードになっている点が特徴的でした。
老朽化した施設や健全性が失われた樹木などに対応するだけでなく、時代や人々の暮らし、価値観の変化に見合った空間の構造や質を追求し、高いレベルで統合、デザインした成果が表現されています。

CLA Award 2026

最　優　秀　賞


①


②


③


④


⑤

作品概要

作品名――百道中央公園 インクルーシブな子ども広場整備
所在地――福岡市早良区百道浜三丁目地内
発注――福岡市住宅都市局公園部整備課（現：福岡市住宅都市みどり局みどり推進部みどり整備課）
設計――株式会社アーバンデザインコンサルタント、カツノ風景デザイン室
設計協力――株式会社コトブキ
設計期間――2022年7月～2023年3月
施工期間――2023年12月～2025年2月
規模――約15,000m^2
主要施設――インクルーシブな子ども広場（遊具、築山改修、休憩施設、園路改修等）

作品評

本作品は、福岡市が進めるインクルーシブな子ども広場の実証実験の場として整備された公園のランドスケープデザインである。

インクルーシブとは全てを包み込むという意味であり、その遊び場のあるべき姿として、国の資料では、「誰もが楽しめる」、「安全で居心地が良い」、「誰もが利用しやすい」、「地域とともにつくり育てる」、「柔軟に管理され進歩していく」の5つの配慮事項が示されている。

この広場整備において、応募者は地元住民や障害者とともにきめ細かな現地調査を行い、そこで得られた意見や分析結果を踏まえて、配慮事項の要件に沿った「遊びの要素の多様化」、「遊び場の細分化」、「様々な障害や特性に合わせた設え」の具体的な改善案を示している。

また、設計レベルの対応においても、低勾配の滑り台の設置、車椅子で登れる築山の改造、園路への展示ブロックの設置等各施設について、思いやりのあるデザインが施されている。

インクルーシブな公園づくりは全国的に拡大しているが、この作品はその先駆的事例の一つとして評価されるものであり、CLA賞の求める独創性や新しい分野へのチャレンジ性等の要件を高い水準で満たすものとして、本年度の最優秀賞に選出した。



⑥


⑦


⑧


⑨

①築山頂上から見た遊具広場　②車いすも使える複合遊具　③既存築山を残しつつ、遊びの要素を追加する
④子どもの飛び出し防止の役割を兼ねたボーダーベンチ　⑤視覚障がい者が公園を散策するための点字ブロック
⑥基本設計平面図　⑦ワークショップでの現地確認　⑧ワークショップで障害のある子どもの保護者から話を聞く
⑨障がい児やその保護者が安心してワークショップに参加できるよう設けた見守りスペース

百道中央公園
インクルーシブな子ども広場整備

株式会社アーバンデザインコンサルタント
大杉哲哉・棚町修一・小峯裕・福岡李奈
首藤紗奈・堤八恵子

本作品は、福岡市のインクルーシブな子ども広場整備指針の策定に携わり、インクルーシブな子ども広場第１号である百道中央公園の基本設計と遊具広場部の実施設計を行ったものである。

設計では、地元住民や障がい者、障がい児の保護者等を集めてワークショップを行い、「誰もが お互いを理解し 安心して笑顔で 自分らしく遊ぶことができる場所」を目指した。

障がい理解を促進する設計プロセス

計画にあたり、障がい者や障がい児の保護者・地域住民の参加によるワークショップ（6回）を開催した。障がい者や障がい児の保護者から遊びに関する意見や配慮事項等を伺い、障がい理解を促進するとともに計画の参考とした。

整備のポイント1【遊びの要素の多様化】

あらゆる子どもが楽しめ、子どもの心身の発達に寄与するため、身体的な遊びだけでなく、五感を刺激する遊びや社会的な遊び等、多様な遊びの要素を盛り込んで設計した。

整備のポイント２【遊び場の細分化】

子どもを公園で遊ばせることについて「体幹が弱い子が活発な子と一緒に遊ぶこと（衝突等の事故の発生）が不安」「障がい児が周囲に迷惑をかけることが心配」等の心理的ハードルがあると保護者から意見が挙げられた。そこで大人数で遊ぶことが出来る場所だけでなく、同じ設えで一人や少人数で遊ぶことが出来る多様な空間を整備した。

整備のポイント３【様々な障がいや特性に合わせた設え】

各障がいや特性により公園が使いづらいと感じる場面があることが分かった。そこでワークショップで出された様々な使いづらさを緩和・解決するハード整備に取り組んだ。

最後に

本作品の考え方はインクルーシブな子ども広場の整備に限ったものではなく、一般的な公園の計画・設計においても前提となると強く感じた。様々な利用者が安心して快適に過ごすことができるインクルーシブな空間づくりとともに、障がい者を含めた他者に対する配慮が特別ではなく社会に広がり浸透して、当たり前の社会となることを願う。